

Have you ever watched the movie *Eye Contact*?

『アイ・コンタクト』

Last Sunday, I watched it with my friends from the soccer team.

This is a documentary movie which shows the challenges of the women's national deaf soccer team.

ドキュメンタリー

〈関係代名詞〈主格〉〉

挑戦

woman の複数形

The team made their international debut at the 21st Summer Deaflympics in 2009.

国際的な

デフリンピック (夏季大会は 1924 年から 4 年に 1 度開かれている)

This movie was made by the director Nakamura Kazuhiko who also made some movies

監督 (かんとく)

〈関係代名詞〈主格〉〉

about the national soccer team.

The movie had a strong impact on me.

First, I didn't know that there is such an international sports festival for deaf people.

I've never even heard of the word "Deaflympics" before.

I was surprised to see that deaf women play soccer just like we do.

まさに私たちが (サッカーを) するように

Making eye contact with each other is important for all soccer players.

たがいアイ・コンタクトをとること (主語)

But the movie showed me that it is much more important for deaf players than for us

that 以下を示してくれた

私たちにとってよりも、ろう者の選手にとってのほうが

because they can't get any information from sound.

〜だから

In the movie, there is a moment without any sound.

So I could imagine how hard it is to play soccer as a deaf person.

〈how 〜+主語+be 動詞〉…がどれほど〜か (it=to play soccer as a deaf person)

In addition, I learned about the everyday lives of deaf women.

The director Nakamura interviewed the players and their families with sign language

〜にインタビューした

which he learned to make this movie.

〈関係代名詞 (目的格)〉

He also went to their schools and their workplaces.

職場

They live around Japan, from Hyogo to Hokkaido, and gather to play in soccer camps.

合宿

After I watched this movie, I became a great fan of the team.

They could win only one game in the 2009 Deaflympics.

I hope they can win a medal next time.

メダル

あなたは今までに映画『アイ・コンタクト』を見たことがありますか。

この前の日曜日、私はサッカー部の友達といっしょにその映画を見ました。

これは、ろう者女子サッカー日本代表チームの挑戦を紹介したドキュメンタリー映画です。

チームは、2009 年、第 21 回夏のデフリンピックで国際的にデビューしました。

この映画は、サッカー日本代表チームについての映画もいくつかとった中村和彦監督によってつくられました。

その映画は、私に強い影響を与えました。

第 1 に、ろう者のためのそんな国際的なスポーツの祭典があることを私は知りませんでした。

「デフリンピック」ということばは、以前に聞いたこともありませんでした。

私は、ろう者の女性がまさに私たちと同じようにサッカーをするのを見て驚いたのです。

たがいにアイ・コンタクトをとることは、すべてのサッカー選手にとって重要です。

けれども、ろう者の選手は音から情報が得られないので、それ [アイ・コンタクトをとること] が私たちにとってよりかはるかに重要であると、その映画を見てわかりました。

映画の中には、音のない瞬間があります。

それで、ろう者としてサッカーをすることがどれほど困難であるか、想像できました。

そのうえ、ろう者の女性の日常生活についても学びました。

中村監督は、この映画をつくるために習得した手話を使って、選手や家族にインタビューしました。

彼は、選手の学校や職場にも出向きました。

彼らは兵庫から北海道まで日本中に住んでいて、合宿でプレーするために集まるのです。

この映画を見たあと、私はこのチームの大ファンになりました。

2009 年のデフリンピックでは、彼らは 1 試合しか勝つことができませんでした。

今回は、彼らがメダルをとれることを私は望んでいます。